# 間伐材及び工場廃材を利用した木質材料の開発

- 粉砕処理したスギ、ヒノキ樹皮の利用について -

野上英孝、見尾貞治

### 1. はじめに

昨年に引き続き、岡山県北部で生産される粉砕樹皮を用い、シート状成形体および吸音ボードを 試作した。シート状成形体については、マルチ資材(雑草抑制シート)としての性能調査を目的に、 新規植林地における実証試験を開始した。吸音ボードについては、昨年に引き続き、製造条件が吸 音特性に与える影響について詳細に調査を行った。

### 2. マルチ資材としての実証試験

## 1) 方法

新規植林地における坪刈りの軽減を目的として、山間の廃畑に植林されたヒノキ苗木の根元 60cm 四方を樹皮シート(厚さ 15mm)で被覆し、下草抑制効果の経過観察を開始した(試験地1、第1 図)。また、傾斜地におけるシートの流出、飛散に対する抵抗性を調査する目的で、傾斜地における新規植林地でも同様の試験を開始した(試験地2、第2図)。



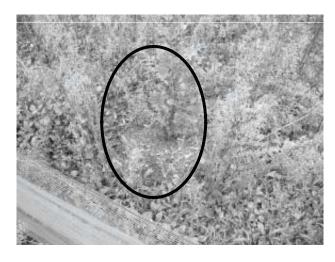
第1図 山間の廃畑を利用した試験地1



第2図 傾斜地を利用した試験地2

# 2) 経過観察

観察期間が短いが、両試験地においてシートの崩壊、飛散、流出は認められず、一定の防草効果を発揮している(第3、4図)。効果の耐用年数等、引き続き観察していく予定である。



第3図 5ヶ月経過後(試験地1)



第4図 3ヶ月経過後(試験地2)

## 3. 樹皮ファイバーボードの吸音特性

## 1) 方法

粉砕樹皮を JIS 標準ふるいを用いて篩分けを行い、8.6mesh を通過した粗さ以下のヒノキ樹皮繊維を原料に用い、ウェットフォーミング法により、低比重ボードを試作した。バインダーとして今回、便宜的にカルボキシメチルセルロース(CMC)を用いた。吸音率の測定は、音響管 (BK4206,ブリューエル&ケアー社製)を用い、垂直入射吸音率を計測することにより、製造条件の繊維粗さ、ボード厚さ、ボード密度が吸音特性に与える影響を調査した。

また、通常のファイバーボードに用いられる針葉樹ファイバーを用いた同様なボードを試作し、樹 皮ファイバーボードとの性能比較を行った。

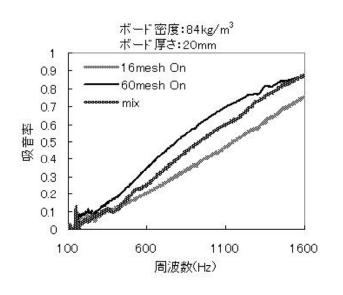
### 2) 結果

各製造条件が吸音特性に与える影響および針葉樹ファイバーボードと樹皮ファイバーボードの吸音特性比較の一例を第5~8図に示す。

第5図より繊維粗さが小さいほど吸音率が大きいことが分かる。篩い分けによる繊維粗さは、繊維の解繊度と密接な関係があり、原料繊維が細いほど吸音率が向上することを示している。また、 $8.6 \sim 60$ mesh 区分の繊維を混合して(図中"mix"で表示)製造したボードは、 $8.6 \sim 16$ mesh、 $30 \sim 60$ mesh 区分の繊維からそれぞれ製造されたボードの中間的な性能を示した。

第6図よりボード厚さが大きいほど吸音率が向上することが分かった。しかし、密度が大きい場合は厚みが一定以上増加すると、吸音率が低下する場合も認められた。

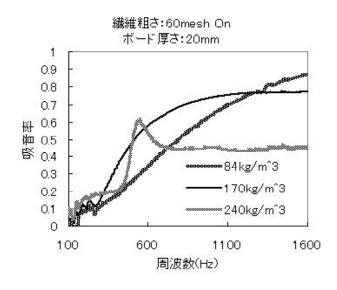
ボード密度と吸音率の関係を見てみると(第7図)、密度の増加に伴い、低周波数域の吸音率が 向上するが、極端に密度が大きい場合、材料表面で音の反射が発生し、吸音性能が低下することが 確認された。 針葉樹ファイバーボードとの性能を比較すると(第8図)、製造条件が同様であれば、原料に樹 皮繊維を用いた方が若干吸音特性に優れる傾向が見られた。今回用いた針葉樹ファイバーに比較す ると樹皮繊維にはより細い繊維が多く含まれており、このことが吸音特性に優れる主要因であると 考えている。

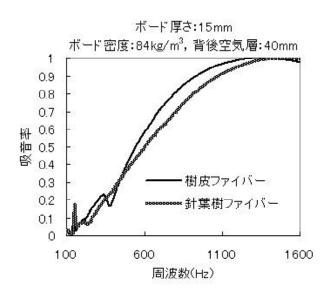


繊維粗さ:30mesh On ボード密度:64kg/m³ 1 0.9 0.8 0.7 15<sub>mm</sub> ₩ 0.6 ₩ 0.5 啓 0.4 30mm 45mm 0.4 0.3 0.2 0.1 0 100 600 1100 1600 周波数(Hz)

第5図 繊維粗さが吸音率に及ぼす影響

第6図 ボード厚さが吸音率に及ぼす影響





第7図 ボード密度が吸音率に及ぼす影響

第8図 ボード原料が吸音率に及ぼす影響

吸音材の性能は、用途によって求められる特性が多様であり、一概に性能を評価できない面がある。しかし、製造条件により吸音特性を変化させることが可能であることから、樹皮繊維は吸音材

の原料として十分利用可能であると思われる。ただし、密度 0.1g/cm³ 前後のボードの製造に関しては、嵩密度の低い樹皮繊維は成型ボードの強度に著しく劣り、不利な点もある。今後、ある程度の物性を兼ね備えた低比重樹皮ボードの製造方法を現在検討している。また、断熱性、VOC 吸着性など、その他の機能性についても調査を開始しているところである。

# 【謝辞】

本研究は伯備建設株式会社(樹皮シートの製造および利用)および岡山県工業技術センター(吸音ボードの開発)との共同研究により行っている。また、粉砕樹皮は月田樹皮処理加工協同組合から提供を受けた。関係者各位に心より感謝の意を表します。